

## 平成19年野球殿堂入り記者発表

事務局長 小林二三男

野球殿堂は、日本の野球界の発展に大きな貢献をした方々の功績を讃え、顕彰するために1959年(昭和34)に創設されました。殿堂入りされた方々の表彰レリーフを博物館の殿堂ホールに掲額し、永久にその名誉を讃えます。

野球殿堂入りは「競技者表彰」と「特別表彰」の2つの委員会で選考し顕彰者を決定いたします。

競技者表彰は、野球報道に関して15年以上の経験を持つメディアの方々の方々の投票で選出されます。1月9日(火)に第47回競技者表彰委員会を開催し、開票が行われました。今年の委員数は313名、有効投票305票で合格ラインは229票でした。その結果、元阪急ブレーブス投手の梶本 隆夫氏(故人)が261票でただ1人選出されました。

特別表彰は、プロ野球役員及び元役員・アマチュア野球役員・野球関係学識経験者14名からなる選考委員会で選出されます。1月10日(水)に第46回特別表彰委員会を開催し、投票が行われました。今年は13名の委員による投票で合格ラインは10票でした。その結果、1984年(昭和59)ロス五輪野球全日本チーム監督(公開競技ながら金メダル獲得)を務められた松永 怜一氏が11票で選出されました。今回の殿堂入りで競技者表彰70名、特別表彰91名、合計161名が殿堂入りしております。

記者発表は1月12日(金)午後3時より博物館の殿堂ホールにおいて行われ、根来理事長より顕彰者に殿堂入りの伝達があり、通知書が授与されました。

殿堂入りされた方々のスピーチを紹介します。

梶本 隆夫夫人「この殿堂入りは、諸先輩方・皆様の強い後押しがあつてのことと感謝致しております。主人は 享子氏 この名誉を何よりも大喜びしているものと思います。」

松永 怜一氏 「野球界はどちらかという、現場指導者に対する配慮に冷たい面があるように思っていましたので、殿堂入りの連絡を受けたときには正直驚きました。私の手元から巣立っていった選手達が社会に出て野球界の為、社会の為に大いに貢献したことが認められたものと思っております。」

梶本氏には故梶本氏の葬儀委員長を務められた殿堂入り大先輩の金田 正一氏「私はいっぱい勝ったけど、投球術というものは私より遙かに超越したものを持っていた。」と、松永氏には横浜ベイスターズ専務取締役の山中 正竹氏「大学・社会人・五輪を通じ42年間、松永監督の一番弟子と自負しています。監督は指導者の中の指導者です。」をゲストスピーカーに迎えて暖かな雰囲気での記者発表となりました。

(表彰式は、7月20日(金)東京ドームでのオールスターゲーム第1戦で行います。)



後列左から 小池 唯夫常務理事、根来 泰周理事長、豊蔵 一常務理事  
前列左から 松永 怜一氏、梶本 享子氏



左から 山中 正竹氏、松永 怜一氏、金田 正一氏、梶本 享子氏



## 競技者表彰委員会

第47回競技者表彰委員会は、阪急（現オリックス）の低迷期を支え、通算254勝を挙げた左腕、故・梶本隆夫氏を選出した。同氏は昨年9月23日、惜しまれながら71歳で他界した。もし1年早ければ、梶本氏本人の喜びのスピーチが殿堂ホールに響いていたかもしれない。

享子夫人が代わって殿堂入りの記者発表に出席した。「主人が亡くなったとき、大勢の方から身に余る追悼の言葉をいただきました。そのことが（殿堂入りの）強い後押しになりました。今日の晴れの場に座ることができなくて残念ですが、主人は大喜びしていると思います」と感謝の言葉を述べた。お祝いのスピーチに立った400勝投手の金田正一氏は「せめて命あるうちに選ばれたらよかったのに」と悔やみながら、梶本氏の現役時代の投球をこう話した。「当時、人気のないパ・リーグで、ひたむきに投げた。投球技術もすばらしかった。手が遅れて出てくる。打者はタイミングをあわせづらい。フォームもきれいだった」。同じ大型左腕は、身振り手振りを交えて、力をこめた。

梶本氏は、岐阜・多治見工から54年に阪急入りした。甲子園の活躍などなく全くの無名ながら、186センチの長身から繰り出すその速球、そして大きなドロップは、プロ選手の中に入ってもひとときわ光っていたようだ。当時の西村監督は、高校卒のルーキーをいきなり開幕投手に指名した。その大抜てきにこたえている。高橋戦を5-3で破り、勢いに乗って1年目に20勝12敗という好成績を残した。入団4年目、57年の南海戦で記録した9連続奪三振は今もプロ野球記録として残る。56年の28勝をトップに、20勝を4度マークした。一方で、シーズン15連敗という苦しみも味わった。打てないチームで、3番打者を任されたこともあった。通算254勝255敗。2945奪三振は歴代6位にランクされる。73年限りで引退、現役生活は20年だった。

温厚な性格で「カジヤン」、「カジさん」と呼ばれ、後輩の選手にも慕われた。現役後は阪急のコーチとなり、79年からは監督を務めた。もっとも、わずか2年間でその座をおり、翌年からコーチに戻っている。監督を辞して、翌年から再びその球団のコーチというのも珍しい。梶本氏らしいといえる就任だった。

昨年9月、梶本氏は亡くなる1週間前、入院先の病院で「今年はヤマ（山田久志氏）やったな」ともら

したという。阪急の後輩・山田氏が一足早く殿堂入りしていた。享子さんは「来年はきっとパパがもらえるよ」と励ました。その言葉通りに、多くの人から慕われた梶本氏が殿堂入りを果たした。

競技者表彰委員会は、現役を引退して5年を経過している競技者（選手、コーチ、監督、審判員）を資格者とし、野球報道に関して15年以上の経験を持つ委員の投票（10名連記）で選出する。3分の2以上の有効投票があれば、その7割5分以上の得票者を野球殿堂入りとする。今年の委員数は313人で、有効投票は305。幹事会が選出した35人の候補者の中、梶本氏が261票を集めてただ1人当選必要数229をクリアした。

（競技者表彰委員会代表幹事 米谷 輝昭）



（写真提供・ベースボール・マガジン社）

### 梶本 隆夫氏プロフィール

1935年4月8日生まれ

2006年9月23日没

多治見工

1954年～73年	阪急
1974年～78年	阪急コーチ
1979年～80年	阪急監督
1981年～85年	阪急コーチ
1989年～93年	オリックスコーチ
1998年～99年	中日コーチ

プロ野球実働20シーズン

867登板（歴代3位）、254勝（歴代9位）、255敗  
4208投球回、2945奪三振（歴代6位）、最多奪三振2回、ベストナイン1回、ゲーム最多連続奪三振9（1957年7月23日 日本記録）



## 特別表彰委員会

1月10日、東京ドームホテルで行われた平成19年度・第46回特別表彰委員会で、法政監督—住友金属監督—ロス五輪全日本監督を歴任、日本アマチュア野球の発展向上に貢献した、現JOC名誉委員、松永 怜一氏の野球殿堂入りが決定した。

前年までの候補者名簿から、平成18年度殿堂入りの川島 廣守氏、豊田 泰光氏を削除し、新しい候補者として競技者表彰委員会から異動した元中日ドラゴンズ・中 利夫氏と選考委員会で推薦された日本ハム・ファイターズの元オーナー・大社 義規氏、戦後の日米野球交流に尽力した原田 恒男（キャピー原田）氏の3氏を加え、出席13委員の記名投票の結果、松永 怜一氏が当選必要数（10票）を超える11票を得て殿堂入りが決まったもの。

前年候補者名簿入りした、戦前の甲子園大会で準決勝、決勝をとともにノーヒット・ノーラン記録で海草中を優勝に導いた速球投手・嶋 清一投手（戦死）は前年に続く9票、巨人、大洋などで数々の打者記録を残した強打者・青田 昇氏は8票で惜しくも殿堂入りを果たせなかった。

松永氏は1931年（昭和6）11月3日生まれ。福岡県北九州市出身。50年、八幡高内野手として第22回選抜大会に出場、法政大卒業後、55年に法政一高監督に就任。60年、第32回選抜大会、61年、第43回高校野球選手権大会に出場。65年、法政大監督に就任してすぐの65年春季リーグ優勝をはじめ、67年秋季—68年春季の連覇から69年秋季—70年春季—70年秋季と連続優勝。60年代後半の東京六大学野球界に「法政大黄金時代」を築き、68年には第17回全日本大学野球選手権大会でも優勝を果たしている。

71年に、社会人球界の住友金属監督に就任。そこでも77年、79年の日本選手権大会で優勝。そういう実績が84年、全日本チームの監督としてロス五輪公開競技の野球大会での金メダル獲得、同年の世界アマチュア野球連盟最優秀監督賞受賞となって結実した。

日本野球連盟技術指導委員長、全日本アマチュア野球連盟常任理事、プロ・アマ合同の全日本野球会議指導者育成委員長などを歴任のほかJOC選手強化本部長としてオリンピックの選手強化にも尽力した。

高校、大学、社会人各球界を通じて、法政大監督時代の田淵 幸一、山本 浩二ら多くの人材を育てあげ、

教え子のひとりである山中 正竹氏によれば「全国の野球界にこれほど多くの“教え子指導者”をもっている人は他にいないだろう。まさに“野球指導者の中の指導者”」ということになる。

松永氏は「法政大の先輩監督・藤田 信男さんから、“名選手を育てるといふより、野球を通じてルール、マナー、エチケットを守る人間を育てろ”という教育を受け、ずっとそのことを指導理念として野球界を生きてきた」と受賞の喜びを語った。山中氏が表現する「選手が閉口するほど徹底したミーティング好きで、中途半端を嫌う完全主義者の“校長先生”」である松永氏は、現在もなお「全日本野球会議・技術指導委員会委員長」として野球界の普及発展、技術向上に尽力を続けている。

（特別表彰委員会委員 田村 大五）



### 松永 怜一氏プロフィール

1931年11月3日生まれ

福岡県立八幡高校—法政大学

1955年～63年	法政一高監督
1964年	堀越高校監督
1965年～70年	法政大学監督
1971年～80年	住友金属監督
1977年	全日本チーム監督
1984年	ロス五輪全日本チーム監督
現在、	JOC名誉委員



## コラム／博覧・博楽 (21)



## COOPERSTOWNへの旅

大久保 好洋 (野球体育博物館 維持会員)

昭和56年の4月末、私は妻と2人で成田を立ち、深夜のアンカレッジで入国審査を済ませてニューヨークへ向った。今はもう無くなってしまった「トップ・オブ・ザ・ワールド」で夜景を見ながら食事をしたり、美術館などを見学し、6日後の早朝、パインヒル・トレイルウェイのバスでクーパースタウンへ出発した。まだ冬の名残のある州北部の緩やかな山地を抜け、人影も疎らな小さな町を過ぎて行く5時間の旅は物珍らしく新鮮で、2人とも飽きることはなかった。

オテサガ・ホテルで旅装を解き、遅い昼食を済ませ、静かな並木道を歩いて博物館へ向った。先ず2階の図書室へ行き、人気のない閲覧室で、司書のレディング氏から資料や蔵書の丁寧な説明を受けた。再訪を約して館内の見学をはじめた。レリーフの飾られた回廊では、一枚一枚立止まり時間の経つのを忘れた。妻に促されて地下におけると、古いニュース映画が球聖達の雄姿を映しだしていた。外に出ると既に夕闇が迫り、近くの映画館の明りが舗道を照らしていた。

翌朝、窓を開くと肌をさす冷気に震え上がったが、眼下にひろがるオスウエゴ湖から立ち昇る朝靄の美しさはすばらしかった。朝食後、<sup>ひとけ</sup>人気のないゴルフコース添いに湖畔を散歩し、再び博物館へ。日本野球の小さなパネルには、何故か番傘を差し高下駄をはいてコーチスボックスに立つ、レフティ・オドールの写真だけがあった。煉瓦造りのダブルディ球場に立ち寄り、午後のバスでニューヨークに戻った。

中学3年の秋、来日したシールズの試合を観た時に入手したガイドブックで「50余あるマイナーリーグの頂点にあるコーストリーグに所属するシールズ……」と言う文章を読んだ私は、途方もなく大きなアメリカのプロ野球組織に強い興味を抱いた。やがて日米の野球交流が盛んになると大リーグの情報は十分に得られるようになったが、マイナーについては何もないに等しかった。国内は勿論、アメリカの書店を探しても得るものはなく、マイナーの本部に問い合わせた手紙も梨の礫だった。それなら自分で調べようと思い立ち、野球体育博物館を訪れたのは、昭和55年の夏だった。大野 純二さんに目的を話しご了解を得て始めたのは図書室にあるベースボールガイドから年毎の各リーグの最終順位、個人成績、主な出来事などを書き写すことだった。当時は借り出しも許されたので、翌春には今世紀の80年間、延2300のリーグ記録を写し終った。次は当然19世紀である。大野さんをお願いして、クーパースタウンの野球博物館宛の紹介状を囑託の鈴木 龍一さんに書いて頂いて出かけたのが、勤続20年の慰労休暇を利用した前述の旅だった。

8月の休みに今度は1人で旅立った。風景は一変し、通り過ぎる町はバカンスを楽しむ人で賑っていた。博物館にレディング氏を訪ねると、閲覧者で一杯の部屋の一隅に既に机が用意されていた。ここで豊富な資料を写しながら充実した5日間を過ごした。

博物館のヒストリアンのカクライン氏から、アメリカ野球学会 (SABR) への入会を勧められ直ちに入会した。彼は丁度、計画中の「マイナーリーグ正史」のために40万試合に及ぶボックススコアをチェックするという気の遠くなるような仕事の最中だった。SABRの協力によって「マイナーリーグ・エンサイクロペディア」が刊行されたのは12年後の1993年である。帰りのバスの中で私は満足感と同時に一種奇妙な開放感を覚えた。この一年間は私にとってのサバティカル・リーヴであった。

66才でサラリーマン生活を終えた私は一人の野球好きの老人として、時折立派になった博物館を訪ね、夏になれば海を渡ってのんびりと大リーグの試合を観たりしている。

孫のアンドリューと約束した、クーパースタウンへの旅もそろそろ実行しなければと思っている。今度は呑気な観光客の一人として旅を楽しみたいと願っている。



## 殿堂入りの人々を語る (14)

### 「遺族は消息不明……」

桐原 良光 (桐原 眞二氏 次男)



1984年殿堂入り  
桐原 眞二氏レリーフ

父・桐原 眞二の野球殿堂入りが新聞各紙で報道されたのは昭和59年(1984年)1月28日のことだった。競技者としてではなく、特別表彰(野球の発展に貢献した有識者)としての殿堂入りであった。慶應義塾大学野球部主将として、明治39年以来中止されていた慶早戦(慶応側からはこう言うらしい)の大正14年秋の復活に尽力し、これがその後の日本プロ野球の発展につながったという、遺族としてはまことに思いもかけないありがたい評価であった。当日の『東京中日スポーツ』には、「桐原氏は二十年にフィリピンで戦死、現在も遺族の消息は不明になっている」とあった。当時、ほくは毎日新聞社学芸部の記者をしていたが、毎日新聞の運動部でも、桐原 眞二の子供がすぐ2~30メートル先にいるなんて誰も知らなかったはずだ。父の殿堂入りは、ほくたち家族も新聞で見て大いに驚き、大喜びしてほくが野球体育博物館に電話したことを覚えている。「消息は不明」と書かれても仕方がないくらい戦後の混乱期には我が家も転々としていたが、「ちょっと調べれば分かるだろうがあ」という思いがあったことも確かだ。

ほくの生まれたのが昭和17年(1942年)2月で、父がフィリピン・ルソン島で戦病死したのが20年6月10日。応召が16年7月という資料もあるから、ほくに父の記憶があるわけがない。しかも20年8月3日の大阪・神戸大空襲で甲子園球場の南側2~300メートルの所にあった我が家も丸焼けになっているから、資料類も何一つ残されていない。この原稿を書くにあたって長兄・弘行に聞くと、自宅には、夏になると甲子園球場から全国中等学校野球大会の歓声が届き、応接間には野球のトロフィー、アメリカ遠征時の写真や8ミリフィルムなどがたくさんあったそうだ。空襲でやられたとは聞いていたが、8月3日とは兄に聞くまで知らなかった。ほくの脳裏に空襲で焼かれた真っ赤な空と海が残っているのだが、それがその8月3日なのかどうかも分からない。(昭和63年6月26日号<毎日グラフ>「日本の肖像」には、野球通の宮様、賀陽宮恒憲王・敏子妃が昭和9年8月15日にヤンキー・スタジアムで観戦した折にホームラン王ベーブ・ルースと一緒に撮った写真が掲載されているが、その時の案内役として毎日新聞ニューヨーク特派員だった父も並んでいる)。

ほくの記憶にはまったく存在しない父だが、覚えてくださる方が少なからずいた。ほくは、新聞社の学芸部で文壇担当の記者として作家にお目にかかる機会が多かったが、井上 靖さんはほくの名前を聞くと「毎日には桐原という大阪の経済部長がいましたね」と語りかけてくださった。父です、とお答えすると、たちまちに相好を崩して「それではあのヒエンの桐原さんの息子さんですか」という。父は慶大野球部時代、主に遊撃手として活躍し、その守備範囲の広さから「飛燕の桐原」と呼ばれていたと聞いてはいたが、そのヒエンが井上 靖さんの口から出ようとは思ってもしなかった。うれしかった。井上さんは「人気は今の長島以上でしたよ」と持ち上げた。もちろんジャイアンツの長島 茂雄選手のことだ。ほくの手元には昭和14年の大阪毎日新聞・東京日日新聞職員録のコピーがあるが、大阪経済部部長心得に父の名があり、学芸部には「井上 靖」の名がある。不思議なご縁だ。

父の亡くなったのは、前述の通り昭和20年6月。井上 ひさしさんの戯曲『闇に咲く花』は、戦争に人生を翻弄された野球青年の短い生涯とその周囲の人々を描いた名作だが、その初演に合わせて刊行されたこまつ座の座誌<the座>第10号には、「プロ野球戦没選手一覧」「東京六大学野球戦没選手一覧」が掲載されており、父の名もある。その多くは昭和19年、20年に集中しており、その数の多さに改めて驚く。野球体育博物館には平成17年11月に「戦没野球人モニュメント」が設置された。そこに名を挙げられた名前だけで172名を数える。



もの  
知ってほしいこんな資料(58)

WBCチャンピオンリング

「WBCチャンピオンリング」は2006年11月14日、WBC祝勝会を兼ねたプロ野球コンベンションで、日本野球機構から優勝記念品として、王 貞治監督はじめコーチ、全選手に贈呈されました。そしてこれらとは別に展示用として王監督、イチロー選手モデルが製作され、先日当博物館に寄贈されました。現在展示しているのは、外見のデザイン、素材ともまったく同じ王監督のモデルですが、実際に贈呈されたリングには内側に「2006 WORLD BASEBALL CLASSIC JAPAN NATIONAL TEAM」の文字と日の丸が刻まれているとのことです。重さは約45g、大きさは約2.5cmと一般的にはかなり大きなリングといえそうです。このリングは、1月6日よりエントランスホールのWBC特別展示コーナーで展示中ですが、展示ではどうしても側面など細かい部分が見づらいと思われるので、今回このページでご紹介しました。



写真：左側面、正面、右側面の計3点

※製作した天賞堂のブログに、リングの詳細や製作にまつわる話などが掲載されています。

[http://tenshodo.weblogs.jp/info/2006/11/post\\_8a89.html](http://tenshodo.weblogs.jp/info/2006/11/post_8a89.html)

学芸員 関口 貴広

📖 こんにちは図書室です 📖

野球を題材に「友情」、「信頼」を描いた児童書『バッテリー』（あさのあつこ原作 角川文庫発行）が映画化されるほどの人気となっています。そこで今回は、図書室にある児童書をいくつかご紹介します。

児童書といっても、『バッテリー』のような小説以外にも、選手の伝記、野球の技術などいろいろなテーマがあり、この他にもサトウ・ハチロー氏の著書『バットをにぎれば』（1948年刊）など大人が懐かしいと思うものもあります。

これらを親子で一緒に読んだり、ピッチング論やバッティング論について話しあったり、学校の宿題の参考にしたりと、ちょっとした時間に利用していただければと思います。

書名	著者	発行年	発行所
野球のひみつ	谷沢 健一 監修	2005	学習研究社
二死満塁	砂田 弘 著	1984	ポプラ社
ベーブ=ルース	久米 稔 著	1989	講談社
シリーズ・素顔の勇者たち イチロー	高原 寿夫 著	2000	旺文社
〃 イチロー2	四竈 衛 著	2003	旺文社
〃 松坂大輔	鳥飼 新市 著	2000	旺文社
〃 佐々木主浩	平井 勉 著	2001	旺文社
〃 高橋由伸	鳥飼 新市 著	2003	旺文社
〃 松井秀喜	四竈 衛 著、飯嶋 智則 著	2004	旺文社
〃 清原和博	平井 勉 著	2005	旺文社
松井秀喜メジャー物語	広岡 勲 著	2005	学習研究社
小・中学生のためのワンコイン野球教室①～④		2006	ベースボール・マガジン社

司書 山根 礼子



## 【維持会員を募集しています】

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

### 1. 会員の特典

- (1) 当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
- (2) 無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3) アメリカの野球博物館にも無料で入館できます。
- (4) 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5) イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6) 博物館で販売している商品が10%引きになります。

\*新個人会員には上記の特典のほか「The Baseball Hall of Fame & Museum 2002 ～人で振り返る野球ハンドブック～」(2003年から2006年までの

小冊子つき)を進呈します。

\*新ジュニア会員には上記の特典のほか「野球体育博物館オリジナルピンバッチ」を進呈します。

### 2. 会員の種類と会費

年会費(4月～翌年3月迄)

法人会員	1口	10万円
個人会員	1口	1万円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

ご入会月により、初年度年会費の割引があります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費(個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

### 3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、博物館までご連絡ください。

②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 高城・竹内  
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

## 博物館からのお知らせ

### 【評議員の交代】

新任 小林 正三郎氏

財団法人日本学生野球協会監事

山中 正竹氏

株式会社横浜ベイスターズ専務取締役

機谷 俊夫氏

オリックス野球クラブ株式会社取締役球団代表

退任 別府 隆彦氏、田中 浩氏、小泉 隆司氏

### 入館料改定

4月1日より入館料が改定になります。

大人 500円(300円)

小・中学生 200円(150円)

65歳以上 300円

( )は20名以上の団体料金

### ● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日AM10時～PM6時

10月1日～2月末日AM10時～PM5時

入館料 大人 400円(300円)

小・中学生 200円(150円)

( )は20名以上の団体

\*上記の入館料は3月31日までの料金です。

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)

年末年始(12月29日～1月1日)

### 《2月・3月・4月の休館日》

2月 5日・19日・26日

3月 5日・12日・19日

4月 9日・16日・23日

●編集後記 野球殿堂入りが決まり、あらたな1年がスタートしました。野球界の今年の話は、ペナントレース終了後セ・パ両リーグの成績上位チームが、日本シリーズの出場権をかけて行う「クライマックスシリーズ」や、北京オリンピック出場をかけたアジア予選など、いっぱいあります。これからも野球界のさまざまな情報をお届けしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

### Newsletter Vol.16 / No.4

2007年1月25日発行

編集・発行 財団法人 野球体育博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

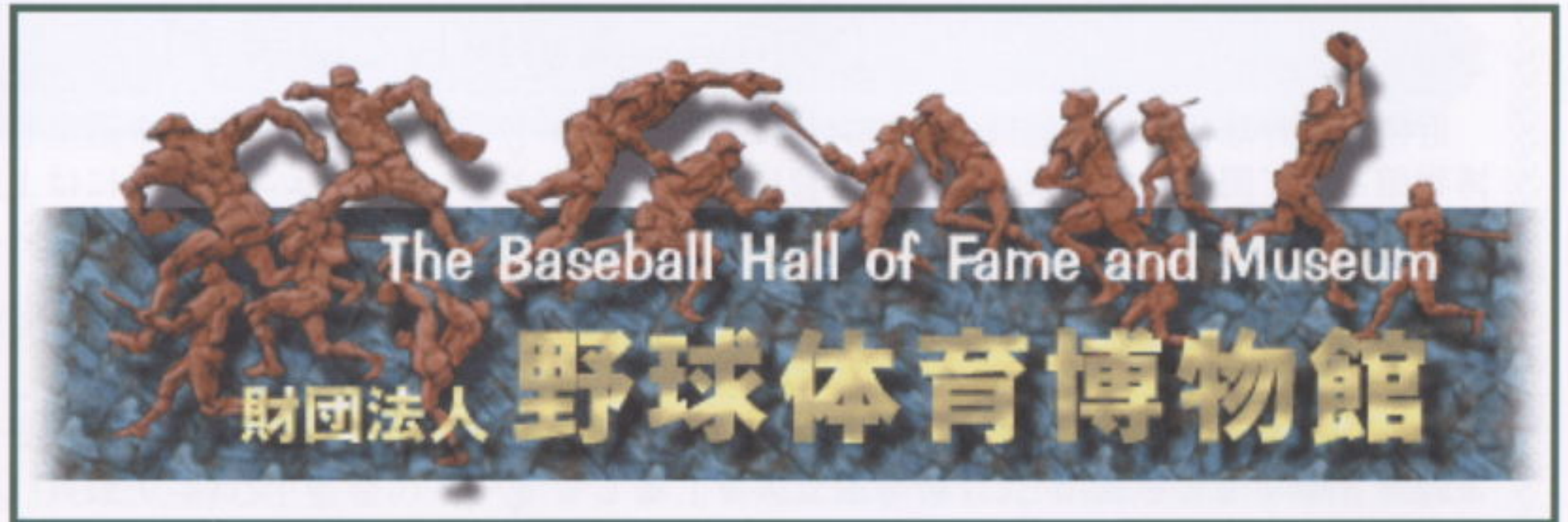
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369

<http://www.baseball-museum.or.jp/>

定価 100円



Vol.16 / No.4



## リレー随筆(27)

西田 善夫 (特別表彰委員会委員)

今シーズンから、試合前に松坂が肩を整え、回が進むと岡島が投げ始めるボストン・フェンウェイパークのブルペンに、レッドソックスが不利になると必ず姿を見せる右腕投手がいた。

名前はレッド・ラフィング。赤毛からついた呼び名だ。

舞台は80年近い昔、1929年。10年前に至宝ベーブ・ルースをヤンキースに破格の20万ドルで譲って以来、ボストンの低迷は続いていた。その日の宿敵ヤンキース戦も中盤で大差が付いた。

主人公のラフィングは中継ぎ、当世風にセットアッパーと言えはいいが、ハッキリ言って敗戦処理。使いべりしない24歳は前年25敗、この年も22敗して2年連続最多敗をマークする敗戦、いや歴戦の勇士だった。

開いた点差に、出番と心得てダッグアウトからブルペンに歩くラフィングの右手にはサンドイッチの箱がぶら下がっていた。

大食漢というベーブ・ルースのように、試合前にホットドッグを2ダース食べたとか、一挙にドカッと食べるタイプと、いつも何か食べていないと気がすまないタイプがある。ラフィングはいつもモグモグの口だった。右中間にせり出したブルペンに入るとベンチに腰を下ろして、サンドイッチの箱を開けて、一つ摘まんでから軽く投球を始めた。肩慣らしをしてから本格的に腹ごしらえをする算段だった。

ブルペンから指令が来た。

コーチが振り返って言った。「おい、レッド！登板だ！」

レッドが聞いた。

「バッターは誰ですか」

フェンス越しにほんやりと試合を見ていた本来の中継ぎが答えた。

「ルース」。……一息ついてから「次はゲーリッグ、5番はミューゼル」と言わずもがなに付け加えた。

ラフィングはサンドイッチが置かれたままのベンチに近づいて丁寧に箱の蓋を閉めた。

「誰もこれに触るなよ。すぐ帰ってくるからな」と言い残して、190センチの背を丸めてひょうひょうと遠いマウンドに歩いて行った。

1960年代に読んだこの小話には「長くは持たない」という題がついていた。

70年頃から日本でも大リーグの写真集や記録集が入手できるようになった。野球殿堂入りの名鑑に「チャールズ・ハーバート・ラフィング」という名前があった。「ひよっとすると」と調べてみるとレッドの本名だった。

翌シーズン中に0勝3敗でヤンキースにトレードされたレッドはいきなり15勝して5敗。その後、鋭いカーブで毎年2桁勝ち星を重ね、ジョー・ディマジオが加入した36年からは4年連続20勝をマーク、43歳まで投げて通算273勝と大化けした。

ワールドシリーズでは4回連続して第一戦先発の勝ち投手。通算7勝という当時の最多勝記録を残し、引退後20年経た67年に野球人の最高の名誉、殿堂入りを果たした。

ラフィングは86年に亡くなったが、野球人生は「長くは持たない」どころではなかった。やはり「自分で自分を笑える奴は凄い」。

後年知ったことだが、ラフィングには大リーグ入り前に炭鉱事故で左足の指4本を失うハンデキャップがあったという。